

高岡の鉄軌道を活かした市民の移動低炭素化構想
～市民活動・市民意識のそばにある公共交通を目指して～

対象地域	富山県高岡市
代表提案者	高岡市
協同提案者	
対象分野 (まち・住まい・交通)	交通

【1】 地域の概観・地域課題

◆高岡市の概観

- ・人口約18万人の富山県第2の都市。鋳物やアルミニウム工業の生産が盛んで、商工業都市として発展してきた。
- ・平成21年に開町400年を迎えた歴史都市であり、まちなかを中心に歴史・文化資産が点在し、県内有数の観光地となっている。
- ・平成27年春に北陸新幹線の開業を控え、飛越能(飛騨・越中・能登)地域、富山県西部地域における交流拠点としての飛躍が期待される。
- ・高岡駅を中心に東西南北に鉄軌道が走る。路面電車万葉線は、廃線の危機を市民各層の熱意によって乗り越え、現在に至っている。

◆地域課題

中心市街地の空洞化・市街地の分散

中心市街地の急速な人口減少、事業所や大規模商業施設の郊外立地の進展により、中心市街地の空洞化、市街地の分散が進行しており、自動車による移動を助長している。

北陸新幹線開業による分離駅化する

新幹線駅である新高岡駅は、現在の交通拠点である高岡駅から南に約1.5km離れた分離駅となることから、現状の公共交通体系が十分機能せず、地域のモビリティが失われてしまう恐れがある。

高齢化の進展と過度な自動車依存

自動車保有率が全国第2位で、自動車による移動が中心である一方、全国より早く進行している高齢化のため、公共交通の需要が高まり、公共交通利用の誘導、公共交通の利便性の向上が求められている。

中心市街地活性化・低炭素化の取り組みの必要性

◆課題解決に向けた取り組みの方向

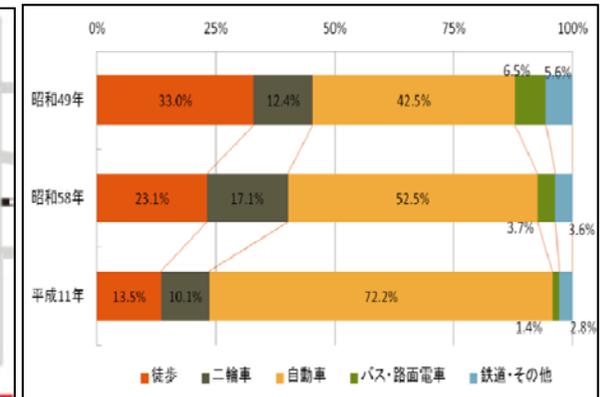
市民の公共交通利用に対する意識を高め、過度に自動車に依存する生活からの脱却、公共交通を利活用する生活への転換を図る。

交通拠点である高岡駅、新高岡駅の両駅を連携・機能させる公共交通ネットワークの構築と交通拠点を核とした都市構造の再構築を図る。

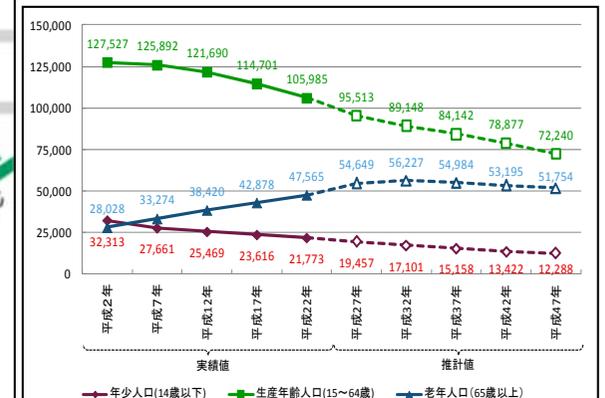
中心市街地の魅力を高めながら公共交通の利用を促進するため、利便性向上や交通拠点の機能向上に資する環境整備を図る。



高岡駅・新高岡駅周辺環境



交通分担率推移 (富山高岡広域都市圏パーソントリップ調査)



年齢3区分別人口推移 (国勢調査、日本の地区別将来推計人口)

【2】 構想の全体像

◆コンセプト

中心市街地・周辺市街地の活性化と低炭素化行動を、市民と行政が「共創」により実現する

北陸新幹線開業を契機として、市民が守り育ててきた鉄軌道(公共交通)と市民の距離をもう一度近づけ、低炭素都市 高岡を目指す

人がまちなかへ集まるまちの魅力づくり、まちのブランド化とあわせ、

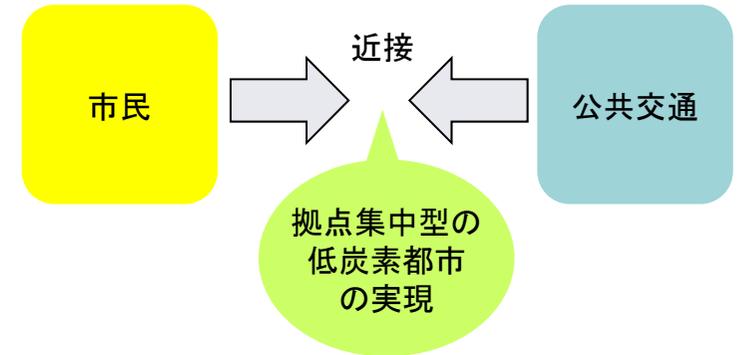
市民の公共交通利用(低炭素行動)を誘導する取組みの推進

市、交通事業者、市民が協働・連携した公共交通の維持・活性化

市民が利用しやすい公共交通とするためのハード整備、交通システムの構築

◆目的

市民と公共交通の心理的近接化	<ul style="list-style-type: none"> ○市民・地域発意型の公共交通利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・市、交通事業者だけでなく、市民や地域が主体となった利用促進活動 ・利用促進活動に対する継続的な支援 ○自動車から公共交通へと利用者意識の自発的変革の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を身近に感じてもらう働きかけ ・利用促進団体、組織の結成促進
市民と公共交通の物理的近接化	<ul style="list-style-type: none"> ○駅、電停、バス停のコミュニティ拠点化 <ul style="list-style-type: none"> ・待合環境にコミュニティ機能をもたせる環境づくり ・待合環境の利便性、快適性を高める環境づくり ○交通拠点を一体的に機能させるネットワークの構築、都市構造の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ・高岡駅・新高岡駅間を結ぶ公共交通アクセスの強化 ・公共交通沿線の整備、駅周辺の都市集約化
市民と公共交通の環境配慮化	<ul style="list-style-type: none"> ○市内各交通モードにおけるエコ化の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の車両、施設のエコ化 ・徒歩、自転車の活用



[3] 構想における取組みの全体概要

○ツアーイベント等の実施

- ・公共交通を活用するツアーイベントの実施
- ・児童の課外活動での公共交通の活用

○市民参加型のモビリティ・マネジメント事業

- ・ワークショップなどによる情報交換、意識向上
- ・公共交通マップ、沿線ガイド等の作成



○車両、施設の省エネ化

- ・万葉線の老朽車両を省エネ型の新型車両に更新
- ・環境配慮型車両の導入・活用
- ・万葉線の車内、電停のLED化



○マイレール・マイバス意識の醸成

- ・沿線住民、企業への働きかけ

○サポーター組織の活動支援

- ・サポーター組織のイベント等の支援
- ・交通事業者とサポーター組織の連携強化



○駅、電停、バス停のコミュニティ拠点化

- ・駅等を活用したイベント開催、情報発信
- ・待合環境の改善
- ・コミュニティ施設とバス停の共用化

○公共施設の公共交通沿線への再配置

- ・駅周辺などに学校、体育館などを設置

○民間主導のまちなか居住促進

- ・万葉線沿線のまちなかの空き家の再生
- ・まちなかへの住宅建設促進



○徒歩・自転車の利用促進

- ・駅周辺に自転車道、歩道整備
- ・サイクル&ライド駐輪場、レンタルサイクルの整備



凡例	路線名称	路線
	加越能バス	—
	富山地鉄バス	—
	高岡市公営バス	—
	高岡市コミュニティバス	—
	射水市コミュニティバス	—
	海王交通バス	—
	ぐるっと小勢地区バス	—
	JR西日本	—
	万葉線	—

○路線バスによるアクセス強化



○路線バスによるアクセス強化

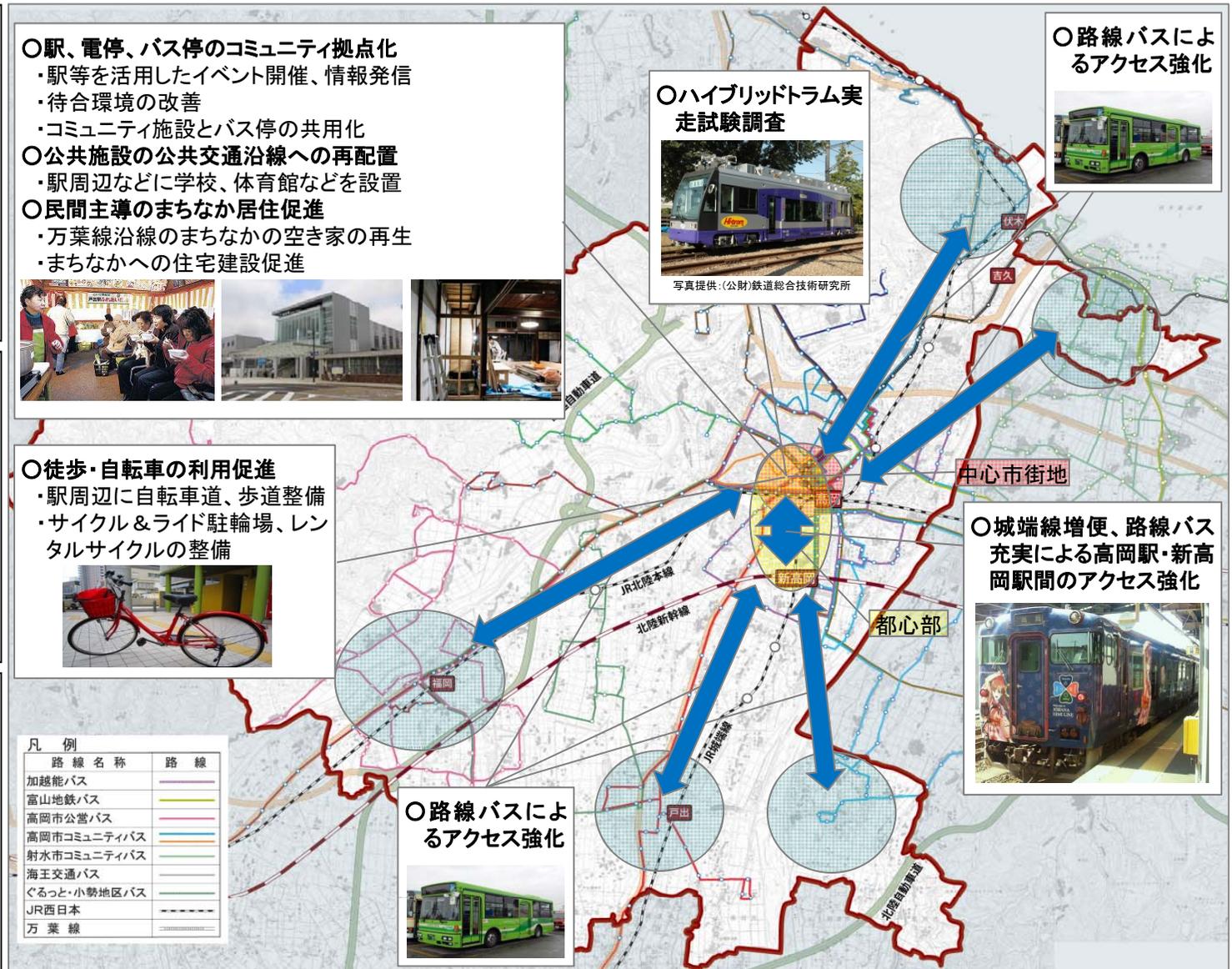


○ハイブリッド tram 実走試験調査



写真提供：(公財)鉄道総合技術研究所

○城端線増便、路線バス充実による高岡駅・新高岡駅間のアクセス強化



【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト

① 官民協働による公共交通活用・低炭素化行動促進プロジェクト

【目的】

低炭素化行動の必要性に対する市民の意識啓発を出発点に、

- ・地域の公共交通に対するマイルール、マイバス意識の醸成を図り、自動車から公共交通へと意識の転換を図る。
- ・市民の自由な発想を活かした取り組みを市が支援することにより、より効果的に利用促進を図る。

(i) 市民参加による意識啓発活動

【取組み内容】

○ツアーイベント等の実施

- ・公共交通を活用するツアーイベント等を通じて、公共交通に対する愛着、親しみを感じてもらい、公共交通への理解・関心の向上を図る。
- ・児童、幼児の課外活動の際に公共交通を積極的に活用するよう、市と利用促進団体が連携して保育園・幼稚園・小中学校に働きかける。
また、児童向けの公共交通利用教材を作成し、小学校に配布。これらの取り組みにより、子供たちの意識形成を図る。

○市民参加型のモビリティ・マネジメント事業

- ・ワークショップなどで地域の公共交通の現状、課題について地域住民と意見交換し、公共交通への理解・関心の向上を図るとともに、地域の意見を反映した公共交通の実現を目指す。
- ・地域住民の手による公共交通マップ、沿線ガイド等の作成など、市民参加型のモビリティ・マネジメント事業を実施し、公共交通に対する市民活動の恒常化、利用誘導を図る。



(ii) サポーター組織の活動支援

【取組み内容】

○マイルール、マイバス意識の醸成による利用促進

- ・沿線住民・企業への働きかけ、市民参加による意識啓発活動などを通じて、地域における公共交通の必要性を共有することにより、マイルールマイバス意識の醸成を図り、積極的な公共交通利用を促進する。

○サポーター組織の活動支援

- ・RACDA高岡、こみちブルルートサポーターの会など、サポーター組織の行う公共交通活用イベント等に対する支援を行い、公共交通の利用促進を図る。
- ・官民協働の活動拠点の整備、充実などにより、活動の支援を行うとともに、交通事業者とサポーター組織の連携強化を推進する。



【既存利用促進団体、組織】

万葉線対策協議会、万葉線を愛する会、RACDA高岡、こみちブルルートサポーターの会、JR駅利用促進協議会、城端・氷見線活性化推進協議会、JR氷見線応援委員会、加越能バス勝木原線維持対策協議会、加越能バス石堤線維持対策協議会

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト

② 交通まちづくり連携による低炭素化行動促進プロジェクト

【目的】

- ・市民活動の場と公共交通を近づけるための都市構造の再構築、居住促進など、公共交通を核としたまちづくりを推進し、公共交通を利用しやすい環境を整備する。
- ・公共交通の利便性、快適性、拠点性、ネットワーク性を高めることにより、一部の人が利用する公共交通から、誰もが利用する公共交通へと改善する。

(i) 駅、電停、バス停のコミュニティ拠点化

【取組み内容】

○駅等を活用したイベント開催、情報発信

- ・駅等でイベントの開催、情報発信をするなど、地域交流の活性化、活動拠点としての機能向上を図り、公共交通の利用促進を図る。

○待合環境の改善

- ・バリアフリー化、バスロケ導入促進などにより、利便性を向上させ、公共交通の利用促進を図る。
- ・停留所の上屋、側壁、椅子設置など、休憩機能向上により、公共交通の利用促進を図る。

○コミュニティ施設とバス停の共用化

- ・既存コミュニティ施設の近傍にあるバス停を近接化し、施設を待合所として活用する。



(ii) 交通拠点を連携・機能させるネットワークの構築、都市構造の再構築

【取組み内容】

○高岡駅と新高岡駅の公共交通アクセス強化

- ・城端線の増便、ダイヤ調整等により、鉄道利用の誘導を図る。
- ・両駅間を経由し、各方面と乗り換えなしで結ぶバス路線を整備し、バス路線利用の誘導を図る。

○公共施設の公共交通沿線への再配置

- ・高岡駅周辺など、公共交通の沿線に学校、体育館などの公共施設を整備することにより、拠点集中型のコンパクトなまちづくりを図る。



(iii) 民間主導のまちなか居住促進

【取組み内容】

○万葉線沿線のまちなかの空き家再生

- ・万葉線沿線のまちなかの空き家をシェアハウス、ギャラリーとして再生し、学生、クリエイター等の居住、活動を支援する。

○まちなかへの住宅建設促進

- ・駅、電停、バス停が多く、公共交通の利便性が高いまちなかへの住宅建設を促進することにより、公共交通利用の誘導を図る。



【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト

③ 市内交通モードの低炭素化行動促進プロジェクト

【目的】

- ・公共交通の車両、施設の低炭素化により、市民の公共交通利用の動機づけの強化を図る。
- ・環境負荷のない徒歩、自転車の活用、公共交通との連携により低炭素化を図る。

(i) 万葉線・市内公共交通の低炭素化プロジェクト

【取り組み内容】

○ハイブリッドトラムの実走試験調査

- ・万葉線におけるハイブリッドトラムの実走事業等に取り組み、将来を担う子どもたちをはじめとして、市民の公共交通に対する理解・関心の向上を図るとともに、地域の鉄道の未来について考える機会を提供する。

○車両、施設の省エネ化

- ・万葉線の老朽車両を省エネ型の新車両に更新
- ・交通事業者と連携し、省エネ効果・PR効果が高い環境配慮型車両の導入・活用を図り、公共交通に対する理解・関心の向上を図る。
- ・万葉線の車内・電停の照明など、交通事業者と連携し、車内、施設内のLED化等に取り組む。



(写真提供：(公財)鉄道総合技術研究所)



(ii) 徒歩、自転車を活用した低炭素化

【取り組み内容】

○歩道、自転車の利用促進

- ・高岡駅、新高岡駅周辺を中心に歩道、自転車道を整備し、徒歩、自転車の利用促進を図る。
- ・駅周辺にサイクル&ライド駐輪場、レンタルサイクル等の整備を図り、自転車の二次交通機能を拡充し、自転車、公共交通の利用促進を図る。

○まちあるきと公共交通の連携強化

- ・市中心部に観光地が点在している特性を活かしたまちあるき観光スタイルに公共交通を融合させ、公共交通の利用誘導を図る。



【5】 構想の実現に向けたロードマップ(1)



【5】 構想の実現に向けたロードマップ(2)



【6】 構想の実現に向けた課題と方策

項目	課題	課題に対する対応方針、対応策
構想全体	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への事業の浸透、意識づけに要する時間 ・構想の一体性の確保 ・継続的な事業推進体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報媒体を活用し、プロジェクトの進行をPR ・各プロジェクトの関連性・相乗効果を意識した事業内容の展開 ・定期的なフォローアップの実施
リーディングプロジェクト① 官民協働による公共交通活用・低炭素化行動促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーイベント等の企画内容の充実 ・市民参加の効果的な誘導 ・市民の自主性・主体性の継続性確保 ・サポーター組織の活動活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民などの自由な発想に基づくユニークな企画の立案 ・国、県などの後援、協賛による活動の拡大化 ・サポーター組織、地域のオピニオンリーダーと連携した市民参加の誘導 ・参加者の達成感、満足感が得られる事業の実施 ・公共交通利用、事業参画へのインセンティブ付与
リーディングプロジェクト② 交通まちづくり連携による低炭素化行動促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のニーズに沿った拠点化、周辺整備 ・拠点整備費用の確保 ・吸引力のある大規模施設の用地確保 ・まちなか居住のインセンティブの希薄さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型の取り組みの推進 ・国等の支援制度の充実 ・集約化を促進する税制等の優遇措置 ・まちなか居住のブランド化、意識変革
リーディングプロジェクト③ 市内交通モードの低炭素化行動促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者のインセンティブ・主体性の向上 ・支援体制の構築(費用負担の検討) ・自転車、徒歩移動者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素化目標の設定 ・国等の支援制度の充実 ・自転車、徒歩移動の魅力を感じることでできるまちづくり、観光の仕掛けづくり

『高岡の鉄軌道を活かした市民の移動低炭素化構想』の実現へ

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要①

【リーディングプロジェクト①】 官民協働による公共交通活用・低炭素化行動促進プロジェクト

【(i)市民参加による意識啓発活動、(ii)サポーター組織の活動支援】

項目	内容
プロジェクトの内容(構想全体における位置づけ含め)	官民協働の公共交通利用促進策や公共交通サポーター組織の結成促進、活動支援を行い、市民・地域の公共交通に対するマイルール、マイバス意識の醸成を図り、市民・地域主導の公共交通利用促進体制の確立を図る。
実施予定時期	平成26年4月～
想定実施箇所(場所)	公共交通沿線を中心とする市内各地
想定実施主体(実施体制)	市、沿線住民、沿線事業所、サポーター組織(万葉線を愛する会、こみちブルールートサポーターの会、RACDA高岡、JR駅利用促進協議会など)
実現に向けての手順	継続しているイベント等も多く、これまでの活動をベースに拡充する。
想定事業規模	既存イベント等の継続、拡充。既存サポーター組織の活動への行政支援の継続、拡充。
想定事業効果	・市民の公共交通に対する理解・関心の向上、公共交通の維持・活性化に向けた市民活動の活発化 ・公共交通の利用促進
実施に向けての課題	・市民参加の効果的な誘導 ・市民の自主性、主体性の継続性確保 など

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要②

【リーディングプロジェクト②】 交通まちづくり連携による低炭素化行動促進プロジェクト

【(i) 駅、電停、バス停のコミュニティ拠点化、(ii) 交通拠点を連携・機能させるネットワークの構築、都市構造の再構築、(iii) 民間主導のまちなか居住促進】

項目	内容
プロジェクトの内容(構想全体における位置づけ含め)	公共交通沿線での都市機能の集約、居住促進など公共交通を核としたまちづくりを推進するとともに公共交通の利便性、快適性、拠点性、ネットワーク性を高めることにより、公共交通を利用しやすい環境づくり、利用を誘導する取り組みを一体的に行う。
実施予定時期	平成26年4月～
想定実施箇所(場所)	都心部(新高岡駅から高岡駅、中心市街地を含むゾーン)を中心に実施。
想定実施主体(実施体制)	市、沿線市民、沿線事業所、サポーター組織
実現に向けての手順	まずは高岡駅と新高岡駅のアクセス確保など交通網整備を優先的に実施。その取り組みの中で官民協働によるコミュニティ拠点化、待合環境の改善などを順次取り組む。
想定事業規模	(i)・・・鉄道駅によるコミュニティ拠点化(市内12駅)、バスロケ整備(5路線) (ii)・・・学校、体育館(2施設) (iii)・・・空き家再生(10施設)
想定事業効果	・官民協働によるコンパクトなまちづくりの実現 ・公共交通をベースにしたコミュニティ、効率的なモビリティの確保 ・公共交通の利用促進
実施に向けての課題	・地域住民のニーズに沿った拠点化、周辺整備 ・拠点整備費用の確保 など

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要③

【リーディングプロジェクト③】 市内交通モードの低炭素化行動促進プロジェクト

【(i)万葉線・市内公共交通の低炭素化プロジェクト、(ii)徒歩、自転車を活用した低炭素化】

項目	内容
プロジェクトの内容(構想全体における位置づけ含め)	公共交通の車両、施設のエコ化により、市内交通モードの低炭素化を図るとともに、環境負荷のない徒歩、自転車の活用また公共交通との連携により、公共交通利用の誘導を図る。
実施予定時期	平成26年4月～
想定実施箇所(場所)	(i)・・・万葉線、路線バス (ii)・・・都心部を中心に実施
想定実施主体(実施体制)	市、交通事業者
実現に向けての手順	(i)・・・まずは基幹的な交通機関である万葉線において実施する。 (ii)・・・まずは利用拡大に向けた市民の意識づけなどソフト面からの取り組みを推進し、それを踏まえながら道路整備などのハード面からの取り組みを実施する。
想定事業規模	(i)・・・万葉線車両の省エネ化(既存LRV車両6両、新車両6両) (ii)・・・都心交通軸の幹線道路(2路線)
想定事業効果	・公共交通のCO ₂ 排出量削減 ・公共交通の利用促進
実施に向けての課題	・交通事業者のインセンティブ、主体性の向上 ・支援体制の構築 など